

「経営に役立つ会計」でブレない経営を



三保俊輔税理士事務所

所長 三保 俊輔氏

広島県広島市東区光町1丁目12-20
もみじ広島光町ビル3F
TEL.082-264-1572

試算表の活用に関する指導強化が、顧問先の黒字率を向上させるのではないか。そんな仮説のもと、会計データの活用方法の研究に力をいれている税理士がいる。それが、広島に税理士事務所を構えている所長税理士の三保氏だ。

「決算書には、不況でも十分に対応できる次の一手が書かれている。まずは、ここに気づくこと」「スケールで利益を稼ぎ出す時代は終わった。このスケール戦争を続けている限り、今後良い結果を生み出すことはないだろう」(三保氏)

また、規模を第一に考えない経営スタイルには、経営者とそこにいる社員の生きがいにも配慮されている。中小企業の経営者に対し、経営の本質を理論的に伝え、深く理解した経営者を通じて着実に経営改善の実績をあげている。経営改善に前向きな企業には、金融機関の本部と直接交渉することもある。

「経営には、楽しさを犠牲にしない規模がある」と三保氏は語る。一部の専門特化サービスなど例外もあるが、おおよそ年間粗利一億円、一〇億円程度を想定しているという。経営をこの領域にもつていくために必要なのが「経営に役立つ会計」。

「経営に役立つ会計」とは、過去会計・現在会計・未来会計の三つ。

自社の経営を考えるうえで基礎となるのが、過去会計だ。それをよく理解した経営者は、いま起きている問題をタイムリーに把握することの重要性に気づく。そこで機能するのが現在会計。そして、未来会計が、目標達成のためのプロセスを管理する。優秀な生徒が、日ごろから成績を管理しているのと同じである。

また、試算表構造をシンプルにすることによって、経営者が問題を発見しやすくなる会計も目指している。

ブレのない経営を実行するために、会計情報をおいかにして経営に役立たせるか。税理士として、時代の要請に応えていく考えた。